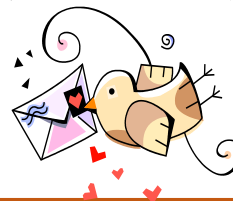


安全就業ニュース

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会

★ 今月の事故 ★



1. 事故の概要（就業中）

2人で個人宅の植木の剪定作業を行っていたところ、1人がハチに刺されて体調が悪くなり救急搬送された。一時的に心肺停止となったが、二日後に意識は回復した。しかし、心肺停止が原因で声が出ず、会話ができない、歩行もできないという状態が続いており、6カ月経過した現在も入院中である。

2. 事故の原因

ハチの毒によるアナフィラキシーショック及びアナフィラキシーショックによる心肺停止。

3. 再発防止策

【センター】

一時心肺停止に陥ったことから、重大事故と位置づけ、全会員に「事故警報」を配付し、注意喚起を図った。

【連合本部】

- ① 事故防止のため就業前の安全ミーティングにおいて「安全確認シート」を活用し、作業手順の確認、作業に潜む危険の認識（ハチ刺され防止策、応急対応策）、当日の体調確認、安全装備使用の確認を実施して事故防止に努めることを周知徹底するよう指導した。
- ② 安全・就業委員会において事故状況の確認及び対応策を検討し、各委員に注意喚起を促すよう指導した。
- ③ 連合会発行の安全ニュースにより今回の事故に対する注意喚起を全センターに行った。
- ④ 多発するハチ刺され事故に対し、センターからの要望もあり救急対応器具（ポイズンリムーバー）の配付を行った。

4. 全シ協から

センターでの仕事は植木の剪定作業や公園清掃等、屋外での作業が多いことから、毎年、ハチ刺されによる事故が多数起きています。

初めてハチに刺された場合は、赤み、痛み、腫れ等の局所症状がある程度ですが、この時、体の中にハチの毒の抗体（I g E抗体）を作る方がいます。過去にハチに刺されたことがある方のうち、この抗体が体内にできた方が2回目に刺された場合、抗体が体内で過剰に反応してしまい、吐き気、頭痛、めまいなどの全身症状が発症してしまいます。さらに一部の方は血圧低下、意識障害、呼吸困難などを発症して、最悪の場合は死亡に至ります。

こうしたことから、過去にハチに刺されたことがある方は、体内にI g E抗体ができていのか否かを病院で検査しておく必要があります。

抗体がある方の就業対策として、ハチが多く発生する夏場はハチがいない場所で就業するようにし、可能であれば、ハチの発生が少ない冬場に就業するようにしてください。また、ハチに刺されて、初期症状としてアナフィラキシーショックを疑う症状が現れた場合には、すぐに「119番コール」を行い、一刻も早く医師の手当てを受けるようにしてください。

令和3年1月（令和2年度）事故速報

(1) 重篤事故

1月は、7件の重篤事故報告がありました。

1月までの累計で比較してみると、令和元年度の26件と比して令和2年度は35件と9件増加しています。

また、就業中・就業途上別にみると、就業中では令和元年度の13件と比して24件と11件の増加となっており、就業途上については、令和元年度の13件と比して11件と2件の減少となっています。ただ、いずれにしても死亡事故件数は増加しています。

1月報告分までの累計

令和2年度累計	就業中・就業途上	件数	内 訳				令和元年度同月累計					
			事故の程度		性別		計	事故の程度		性別		
			死亡	入院	男性	女性		死亡	入院	男性	女性	
就業中	24(4)	12(2)	12(2)	24(4)	0(0)	就業中	13	9	4	12	1	
就業途上	11(3)	10(3)	1(0)	6(2)	5(1)	就業途上	13	6	7	11	2	
計	35(7)	22(5)	13(2)	30(6)	5(1)	計	26	15	11	23	3	

↳ 対前年度比 134.6%

()は、当月報告分です。

1月報告分内容

No.	性別等	仕事内容等	事故の状況	安全 帽	安全 帯	交通 手段
29	男 82 歳	就業中 (入院)	自転車を使用して市の広報誌を担当地域に配付していたが、配付中にバランスを崩して転倒し、頭部を強打し救急搬送された。入院後6カ月経過したが、現在も入院中である。	—	—	—
30	女 96 歳	就業途上 (死亡)	公園清掃の就業先から徒歩で帰宅途中に路上で自動車と接触し、頭部を強打して救急搬送されたが、翌日死亡した。	—	—	徒歩
31	男 62 歳	就業中 (入院)	2人で個人宅の植木の剪定作業を行っていたところ、1人がハチに刺されて体調が悪くなり救急搬送された。一時的に心肺停止となったが、二日後に意識は回復した。しかし、心肺停止が原因で声が出ず、会話ができない、歩行もできないという状態が続いており、6カ月経過した現在も入院中である。	○	○	—
32	男 73 歳	就業途上 (死亡)	生涯学習施設の施設管理のため、自宅から自転車で就業先に向かう途中の道路で転倒し、道路沿いにある用水路に転落し、溺死したと思われる。(用水路近くの路上で自転車が放置されているのを近くの住民が見つかり、警察で持ち主の会員を捜していた。)	—	—	自転車
33	男 75 歳	就業途上 (死亡)	スーパーでのカート回収業務のため、自宅から自転車で就業先へ向かう途中、信号のない交差点で直進してきた車に衝突され、救急搬送されたが2日後に死亡した。	—	—	自転車

34	男 85歳	就業者 (死亡)	定時にコミュニティーセンターを閉館するために見廻りを行っていたが、偶然来館した施設職員が、頭部から出血したまま意識不明で倒れている会員を発見し、救急搬送されたが当日死亡した。目撃者がいないため推測になるが、2階を見廻り1階へ降りる際に、階段を踏み外し転落したものと思われる。	—	—	—
35	男 82歳	就業者 (死亡)	施設内の剪定作業を3人で実施中。施設に隣接する川の擁壁側(水面から約2mの高さ)から脚立は使用せず刈り込んでいた当該会員が、川(水深10～15cm)でうつ伏せ状態となっているのを発見した。救急搬送されたが翌日死亡した(滑落した原因は不明であるが、意識を失って落ちたものと思われる)。	○	—	—

(2) 1ヶ月～6ヶ月未満の入院及び後遺障害の事故

1月は、就業中の事故18件、就業途上の事故6件と、合計24件であり、前年同月の23件と比して1件の増加となっています。また、男女別では、男性は6件の増加となっており、女性は5件の減少となっています。

1月までの累計で比較してみると、昨年度の227件と比して、本年度は208件と19件の減少となっています。就業中・就業途上別にみると、就業中は154件で16件の減少となっており、就業途上は54件で3件の減少となっています。男女別では、男性は160件で9件の増加となっており、女性は48件で28件の減少となっています。

令和2年度1月分

	仕事の内容	事故数(件)		男性(件)		女性(件)		平均年齢(歳)	
		1月	累計	1月	累計	1月	累計	1月	累計
就 業 中	植木・樹木の剪定等	9(6)	68(68)	9(6)	67(67)	0(0)	1(1)	73	73
	除草作業	2(6)	26(31)	2(5)	22(23)	0(1)	4(8)	75	74
	屋内・屋外清掃作業	4(1)	32(31)	2(0)	16(14)	2(1)	16(17)	77	77
	その他	3(4)	28(40)	3(1)	22(25)	0(3)	6(15)	75	74
	計	18(17)	154(170)	16(12)	127(129)	2(5)	27(41)	74	74
就 業 途 上	徒歩	2(2)	16(16)	1(0)	8(4)	1(2)	8(12)	79	74
	自転車	2(2)	27(27)	1(1)	18(14)	1(1)	9(13)	81	77
	バイク	2(1)	9(10)	1(0)	5(2)	1(1)	4(8)	69	73
	自動車	0(1)	2(4)	0(0)	2(2)	0(1)	0(2)	—	77
	計	6(6)	54(57)	3(1)	33(22)	3(5)	21(35)	77	75
合 計		24(23)	208(227)	19(13)	160(151)	5(10)	48(76)	75	75

()は令和元年度同月の発生件数※「植木・樹木の剪定等」(就業中)の事故の累計件数については、「男性会員の6ヶ月以上(180日)の入院報告」が1件あったので、重篤事故(1月報告分)として計上し、その分を累計から差引いた。

「シルバー人材センター団体傷害保険に係る事故件数等報告書」については、事故の有無にかかわらず毎月8日までに必ず提出願います(平成30年4月24日付 事務局長通達により通知済)。

シルバー団体傷害保険の支払いが確定した事故については、速やかに「シルバー団体傷害保険に係る事故件数等報告書」により報告し、報告漏れがないようお願いします。

(3) シルバー派遣事業における労働災害報告の事故（休業1ヶ月以上）

11月は合計13件であり、前年同月の11件と比較して2件の増加となっています。また、男女別では、男性は同数となっており、女性は2件の増加となっています。

11月までの累計で比較してみると、昨年度の77件と比して、本年度は73件と4件の減少となっています。男女別では、男性は40件で6件の減少となっており、女性は33件で2件の増加となっています。

なお、11月に死亡事故はありませんでした。

令和2年度11月分

仕事の型（中分類）	中分類 コード	事故数（件）		男性（件）		女性（件）		平均年齢（歳）	
		11月	累計	11月	累計	11月	累計	11月	累計
建築・土木・測量技術者	9	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (0)	—	—
社会福祉の専門的職業	16	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	—	—
一般事務の職業	25	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	—	—
商品販売の職業	32	0 (0)	1 (2)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (2)	—	70
家庭生活支援サービスの職業	35	2 (1)	7 (2)	0 (0)	1 (1)	2 (1)	6 (1)	65	66
介護サービスの職業	36	1 (0)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (0)	71	71
生活衛生サービスの職業	38	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	—	74
飲食物調理の職業	39	0 (0)	1 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (5)	—	78
接客・給士の職業	40	0 (0)	0 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (4)	—	—
施設・ビル等の管理の職業	41	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (0)	—	—
その他のサービスの職業	42	0 (0)	1 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (3)	—	69
農業の職業	46	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	—	77
生産設備制御・監視の職業 （金属材料製造）	49	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	66	66
生産設備制御・監視の職業 （機械組立）	51	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	—	—
製品製造・加工処理の職業	54	1 (1)	5 (3)	0 (0)	0 (2)	1 (1)	5 (1)	71	71
機械整備・修理の職業	60	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	—	—
製品検査の職業	62	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	63	63
自動車運転の職業	66	0 (1)	1 (3)	0 (1)	1 (3)	0 (0)	0 (0)	—	78
建設の職業	71	1 (0)	1 (1)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	69	69
採掘の職業	74	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	—	—
運搬の職業	75	0 (1)	2 (6)	0 (1)	2 (6)	0 (0)	0 (0)	—	67
清掃の業務	76	3 (3)	16 (13)	2 (1)	10 (8)	1 (2)	6 (5)	72	70
包装の職業	77	0 (0)	1 (2)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (1)	—	68
その他の運搬・清掃・包装等の職業	78	3 (2)	29 (23)	1 (2)	21 (16)	2 (0)	8 (7)	76	72
計	—	13 (11)	73 (77)	5 (5)	40 (46)	8 (6)	33 (31)	70	71

（ ）は令和元年度同月の発生件数

令和2年4月以降に発生した「派遣労働会員の業務災害（休業日数4日以上又は死亡）」、「派遣労働会員の通勤災害（休業日数4日以上又は死亡）」については、「全シ協会員専用ページ」の「シルバー派遣事業における労働災害報告」により、各月翌月最終稼働日までにご入力ください。また、労働災害（業務・通勤ともに）が発生しなかった場合も「労働災害未発生報告」を選択のうえ、各項目をご入力ください。（令和2年4月22日付 2全シ協発第12号により通知済）

新潟県における安全就業の取組み

1. 新潟県シルバー人材センター連合会の概要（令和2年3月31日現在、令和元年度実績）

(1) 会員センター数	21 団体（国庫補助 21 団体）
(2) 会員数	21,106 人（男性：13,607 人、女性：7,499 人）
(3) 粗入会率	2.5%
(4) 就業実人員	17,833 人（請負・委任：15,569 人、派遣：4,262 人）
(5) 就業率	84.5%（請負・委任：73.8%、派遣：76.9%）
(6) 就業延人員計	1,825,275 人日（請負・委任：1,433,026 人日、派遣：392,249 人日）
(7) 受注件数	110,213 件（請負・委任：107,445 件、派遣：2,768 件）
(8) 受注金額	8,390,524 千円（請負・委任：6,415,591 千円、派遣：1,974,933 千円）

2. 新潟県の過去5年間の事故発生状況（シルバー保険対象事故）

○傷害保険事故

(件)

区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
就業中	85	88	83	83	84
就業途上	12	10	15	11	7
総 件 数	97	98	98	94	91

○賠償責任保険事故

(件)

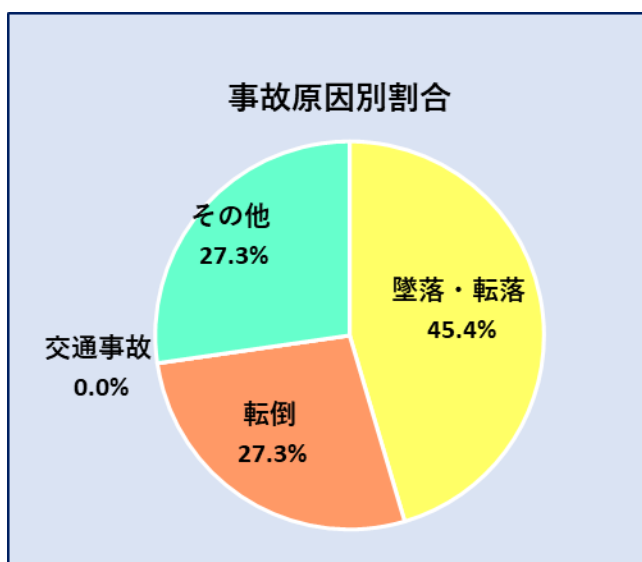
区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
対 人	0	1	2	1	0
対 物	61	71	90	102	83
総 件 数	61	72	92	103	83

傷害保険事故については、29年度以降、就業中の事故はほぼ横ばいであるが、就業途上の事故は減少しており、総件数は28年度以降減少傾向にあります。

賠償責任保険事故における対物の件数は27年度以降増加傾向にありましたが、元年度には減少しました。飛び石事故などは財物への損壊はもとより、人身事故になった場合は痛ましい大事故に繋がる可能性があるため、各センターでは講習会の開催や飛び石防護ネットを有効活用した対策などを講じ、事故防止対策に取り組んでいます。

3. 令和元年度の発生事故の種別（入院1日以上）

事故の型	請負		
	就業中	就業途上	計
墜落・転落	5	0	5
転倒	3	0	3
交通事故	0	0	0
その他	3	0	3
計	11	0	11



事故原因は墜落・転落、転倒を合わせると70%を超える割合となっています。作業前の危険予知（下見やミーティング）を行い、保護具着用を厳守し、一人ひとりが事故防止意識をもって事故撲滅に向けて取り組んでいます。

また、最近では蜂刺されや熱中症による事故が増えてきているため、それぞれの対策を各センターで講じています。

4. 新潟県安全就業スローガン

令和2～4年度の3年間の新潟県の安全就業スローガンを県内各センターから募集し、令和2年2月25日に開催された安全・適正就業委員会において選定し、その後、理事会に報告、承認されました。

このスローガンのもと、会員・事務局一丸となり事故撲滅に向けて取り組んでいます。

『無事故こそ みんなで勝ち取る 金メダル』

三条市SC 松井 虎獅 会員

『気を抜くな 慣れた仕事に 落とし穴』

十日町地域SC 小林 康弘 会員

5. 新潟県連合会における安全就業の取組み

(1) 安全・適正就業委員会

県内各シルバー人材センター会員の安全就業と健康並びに適正就業の確保に関する事項を検討し、その対策等を推進するため、平成14年度に安全・適正就業委員会を設置しました。

連合会理事2名、委員（県内センターの事務局長）5名、連合会事務局長の計8名の構成により、毎年度の「安全・適正就業推進計画」の策定や事故状況の把握とその分析等を行い、安全・適正就業対策の徹底を推進しています。

※ 令和2年度の活動については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、安全・適正就業推進研修会は書面による開催とし、安全パトロールは中止となりましたので、令和元年度の取組みを報告させていただきます。

(2) 令和元年度 安全・適正就業推進研修会

開催日 : 令和元年6月18日(火)
 会場 : 新潟ユニゾンプラザ
 参加者 : シルバー人材センターの安全就業推進員・担当役職員等110名
 講演 : 「会員の健康管理と安全就業」
 講師 : (公財)ダイヤ高齢社会研究財団 研究部長 石橋智昭氏



多くの役職員が熱心に受講



グループに分かれての討議

(3) 安全パトロール

令和元年度は剪定・除草・冬囲い作業現場の安全・適正就業巡回指導を11センターで実施しました。実施に当たっては、連合会が委嘱した「当該受検センター以外の指導員」と連合会職員と一緒に就業実態の確認や作業方法等についてセンターと意見交換を行い、安全就業の強化に取り組みました。

このことによって、安全に対する十分な知識や職務経験豊富な「他センター指導員」が安全パトロールを行い、形式的なパトロールの払拭やお互いに気づかなかった注意点等の意見交換により、事故を減らすための適切な指導が行えると考えています。

パトロールの結果、全センターで作業時に合った服装、履物や安全帽、墜落制止用器具の着用及び三脚、刈払機も適切に使用しており、概ね良好でした。しかし、就業場所への移動手段として自動車を使用する際に施錠をしていないものや、鍵が挿しかけたままのケースが見受けられ、盗難防止の観点から施錠するよう指導を行いました。

日付	センター名	日付	センター名
6月25日(火)	五泉市SC	8月27日(火)	妙高市SC
6月26日(水)	村上地域SC	9月13日(金)	南魚沼SC
7月9日(火)	小千谷市SC	10月3日(木)	阿賀野市SC
7月19日(金)	佐渡SC	11月19日(火)	新発田地域SC
7月26日(金)	魚沼市SC	11月29日(金)	長岡市SC
8月21日(水)	糸魚川市SC	計県内11センターで実施	



三脚を使用した剪定作業



指導員とセンターとの意見交換



樹木の冬囲い作業



刈払機を使用した除草作業

新潟県シルバー人材センター連合会様からの報告でした。
詳細にわたるご報告、誠にありがとうございました。

★ 令和3年 春季全国火災予防運動について ★

厳しい寒さが続いておりますが、その様な中でも暖かい日もあり、春は確実に近づいてきています。しかし、春先は空気が乾燥し火災が発生しやすい季節です。

消防庁では、「その火事を 防ぐあなたに 金メダル」を2020年度全国統一防火標語とし、令和3年3月1日から7日までの7日間にわたり、「春季全国火災予防運動」を実施します。それに併せて今回は、火災予防について取り上げてみました。

住宅火災による総死者（放火自殺者等を除く。）数は899人で、前年より47人減少しています。このうち65歳以上の高齢者は662人で、前年より6人減少し、住宅火災による死者（放火自殺者等を除く。）数の73.6%を占めています。

火災による被害を減らすためには、一人ひとりが普段の生活の中で、防火に対する意識を高め、火災予防の対策を行うことが重要です。「住宅防火いのちを守る7つのポイント」を参考に身の回りの火災予防について確認しましょう。

『住宅防火 いのちを守る 7つのポイント』～ 3つの習慣・4つの対策～

【3つの習慣】

- ①寝たばこは、絶対やめる。
- ②ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ③ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

【4つの対策】

- ①逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
- ②寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。
- ③火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
- ④お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。



火災事故は、就業中・就業途上の事故同様、「不注意」が原因となっているように思われます。大切な人命、身体、財産を守るため、日頃から注意を怠らず防火に努めていただきたいと思います。

(出所 消防庁ホームページより)

立春を過ぎましたが、春は名のための寒さが続いており、日本海側を中心に大寒波、強風。今年例年になく多い気がします。先日は、東日本大震災の余震が広範囲に襲いましたが、幸い死者はなく、10年前の経験を生かされた方も多かったのではないのでしょうか。去年のちょうど今頃は、連日新型コロナウイルス感染症の報道がされており、それは一年経った今も変わらず、やっとワクチンが日本にも届き、接種が始まりました。しかし、接種優先順位二位の65歳以上の高齢者へのワクチン接種は4月以降とのこと。それまで今できる感染対策のマスク、手洗いなど予防策を徹底し、三密を避けて元気にお過ごしいただければと思います。この先1ヶ月予報によれば、気温は高め、桜が咲くのも早めとか。年度末まであと1ヶ月余り、健康に留意され、気を引き締めて、安全就業に努めてください。(松山)

今月は「春季全国火災予防運動」について特集しました。火災の出火原因については、「たばこ」の不適切な場所への放置、ストーブの消し忘れなどが多いようです。また、失火の多くは、火気の取り扱いの「不注意」、「不始末」などにより発生しています。春先は特に空気が乾燥することもあり、火災が発生しやすい時季なので、十分注意が必要です。火災は多くのものを一度に失くし、人生が一変する可能性が高い恐ろしいものです。日頃から自分ができる予防を実践し、特に不注意が原因とならないように十分注意していただきたいと思います。(笹野)

安全就業スローガン

「いつまでも 働く喜び 無事故から」

チエブクロー反射缶バッジ

安全就業グッズ、普及啓発グッズとして

■商品No.012 チエブクロー反射缶バッジ

最小製作量:100個～、100個単位

100個 本体価格:@ 490円(税別)

200個～ 本体価格:@ 390円(税別)

500個～ 本体価格:@ 300円(税別)

1000個～ 本体価格:@ 230円(税別)

サイズ:直径54mm

納期:約4週間

・クリップピン付

・OPP袋入り



絵、文字以外の地の部分が反射します。
※反射缶バッジは、背景部分が反射する為、
背景色を入れることができません。

普及啓発グッズ、名札代わりにお勧め

[お問い合わせ先 全シ協企画情報課 FAX 03-5665-8021]